

こめ〜る

2023年 5 月号

発行日:2023年5月

編集人:佐渡農業協同組合 総務部総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

令和5年度 水稲春作業指導会

今年度初めての水稲指導会が開催されました。先の生産者大会でJA佐渡が提案し、合意を得た「気象変動に負けない佐渡流米作り3本柱」を念頭に指導が行われました。3本柱の1つ目は、佐渡島の成り立ちと土壌の特性を今一度学び、自分の田んぼの癖をしっかりと理解したうえで肥培管理をしようという呼びかけになります。2つ目は、土づくりの中でもケイ酸に特化し、細胞を硬くして病虫害や倒伏の抑制を図ると同時に、根の活力向上とクーラー効果で高温障害の軽減を図ります。3つ目は田植え時期を後退させ出穂を遅らせることで高温障害を回避しようと呼びかけました。以上の解説は担当者達の並々ならぬ情熱が込められていますので、専門用語が多いですが、そのまま掲載させていただきました。



種まきの様子を見守る種まき猿 (撮影)水稲担当者

種まき開始!!

令和5年度の種まきが島内各所で始まりました。取材をした(株)JAファーム佐渡では、受託も含めて55ha分の苗の種まきを行いました。JA佐渡の新規就農制度で来島された研修生の大澤さんと阿部さんも種まきに奮闘していました。初めて種もみを見た大澤さんは、「ここから白ごはんになると思うとワクワクします!」と楽しそうに作業を進めていました。



佐渡で初めての春を迎える阿部さん(左)と大澤さん(右)

佐渡の米農家さんにインタビュー

農事組合法人北狄^{きたえびす}農産代表理事 佐藤芳樹さん(63歳)にインタビューさせていただきました。北狄農産は前身の北狄生産組合として集落営農を運営後、H19年3月に法人化して、集落の皆さんで農業を支えてきました。水稲は耕作面積38haで、主に5割減減コシヒカリを生産しています。



海が一望できるこの棚田のお米は絶品だよと語る佐藤さん

本法人の重要な役割として、地域の農業を担っていくことがあるそうです。農業の担い手が少なくなっていく中で、管理が難しくなった田畑を請け負っていることを伺いました。約24年前に、島内で初めて休耕田にひまわりを育てる取り組みを集落の方々と始めたそうですが、今では多くの人が訪れる観光スポットになっています。取り組みの輪も島内の各所に広がっています。次の世代にも集落の農業が持続できるように数千万円規模のパイプライン工事を行い、水資源の確保をしたそうです。担い手についても、30~40代の若者に声を掛けて、田んぼの管理の手伝いをしてもらいながら自分たちが受け継いできたことを、次の世代に少しずつ繋いでいっています。

インタビューを通して、佐藤さんからは、地域の方々への敬意とこれからの希望を見据えた責任感が伝わってきました。集落の方々と共に地域を育むことが、素晴らしいお米作りにもつながっていると感じました。



毎年多くの人を楽しませているひまわり畑



JA佐渡女性部食育出前授業 ~シャカシャカおにぎり体験~

JA佐渡女性部は、食育活動の一環として島内の保育園で“シャカシャカおにぎり体験”の出前授業を行っています。体験を通して、作る楽しさと食べる楽しさを感じてもらい、幼児期から食べることに意欲をもってもらおうことが活動の狙いです。

ご家庭で実際に作ってみたというご家族からは「ごはんが丸まった驚きとうれしさで溢れていました!」「3つもおにぎりを食べました!」といった声を頂きました。

JA佐渡では、食にふれる体験を通して子供たちが食への意欲を高めてくれるよう活動を引き続き取り組んで参ります。



ごはんの入ったカップを振る女の子



おにぎりが出来たよと微笑む男の子



facebook



instagram



JASADOTANBO